



FY21 4Q 決算説明資料

2022年5月12日 東京特殊電線株式会社

1. 決算概要	• • •	P.03
2. FY21配当金およびFY22業績予想	• • •	P.09
3. Appendix	• • •	P.11

(百万円、%)	FY20.4Q	FY21.4Q	増減	増減率	増減要因
売上高	17,297	20,921	+3,624	+21.0	<p>売上原価</p> <p>売上高を占める高付加価値製品の伸長や原価低減の推進に伴う売上原価の改善はあったものの、主要原材料である銅地金価格の高騰等の影響により、原価率は0.2ポイントの悪化となった。</p> <p>法人税、住民税及び事業税</p> <p>▲107百万円 (▲495百万円→▲602百万円)</p> <p>法人税等調整額</p> <p>▲88百万円 (▲209百万円→▲297百万円)</p>
売上原価	12,481	15,139	+2,658	+21.3	
(率)	72.2	72.4	+0.2	－	
売上総利益	4,816	5,781	+965	+20.0	
販売費及び一般管理費	2,332	2,520	+188	+8.1	
営業利益	2,483	3,260	+777	+31.3	
(率)	14.4	15.6	+1.2	－	
経常利益	2,538	3,306	+768	+30.3	
税金等調整前当期純利益	2,542	3,252	+710	+27.9	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,801	2,335	+534	+29.6	

- ・売上高は20,921百万円となり、前年同期比+3,624百万円（+21.0%）と大幅な増収となった。
- ・売上高増減に含まれる為替変動による影響額+833百万円
（電線・ヒータ分野+401百万円、デバイス分野+432百万円）

構成比

電線・ヒータ分野



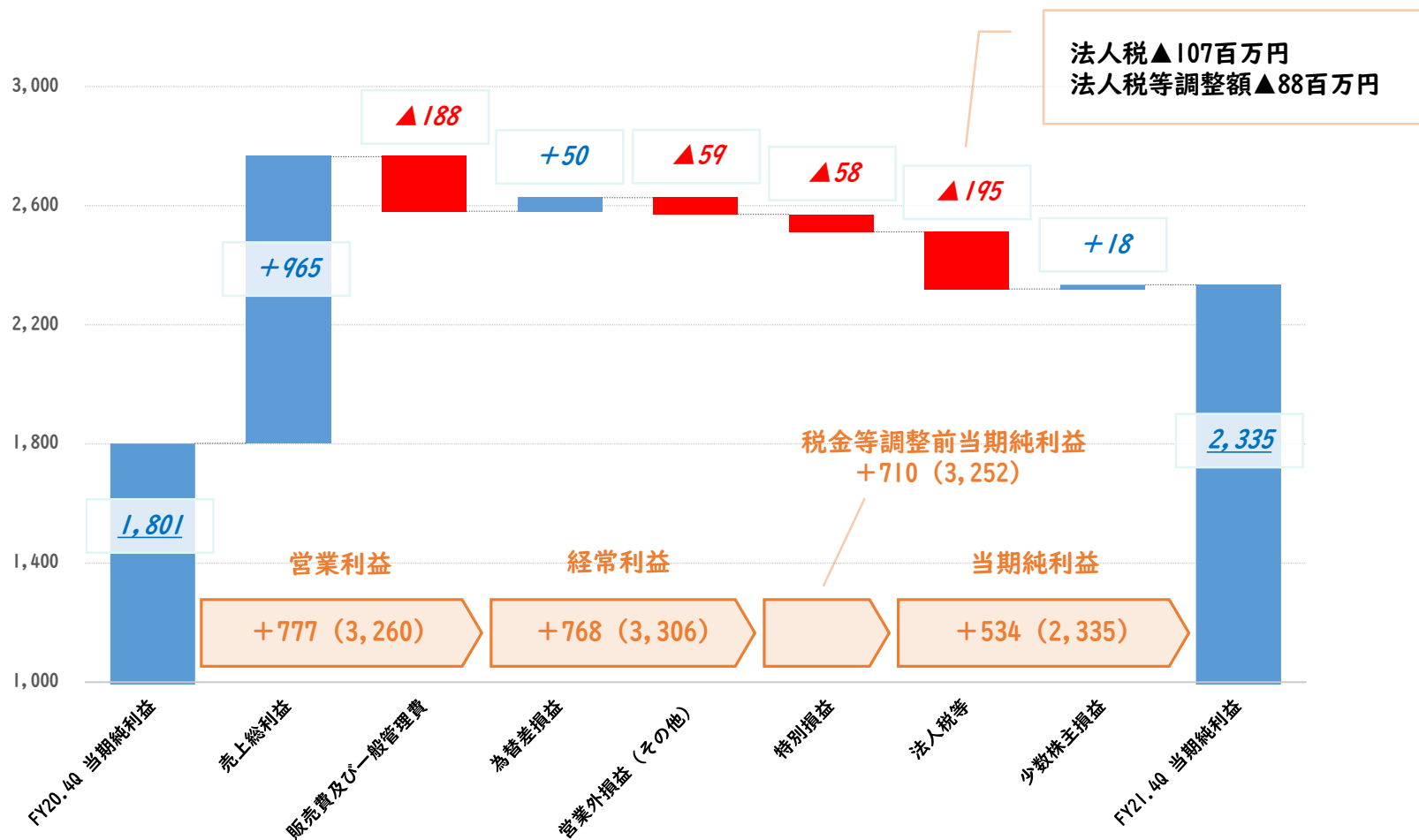
パソコン等の小型トランスに使用される三層絶縁電線がサーバー用で増加し自動車向けシート用ヒータ線はコロナ禍の影響により減少した前期と比較すると大幅に回復、また、中国子会社のヒータ製品も増加したことにより、前年同期比+2,426百万円（+23.2%）となった。

デバイス分野



プリンター等に使用されるフレキシブルフラットケーブル、マイクロウェーブ用同軸ケーブルアセンブリ、半導体パッケージ基板導通検査治具に使用されるコンタクトプローブが増加し、中国子会社の焼付線も増加したことにより、前年同期比+1,241百万円（+18.5%）となった。

(百万円、%)	FY20.4Q	FY21.4Q	増減	増減率
売上高（連結）	17,297	20,921	+3,624	+21.0
電線・ヒータ分野	10,472	12,898	+2,426	+23.2
デバイス分野	6,705	7,946	+1,241	+18.5
その他分野	118	76	▲42	▲35.4



- ・ 営業利益は3,260百万円となり、前年同期比+777百万円（+31.3%）の増益、過去最高を記録した。
- ・ 営業利益増減に含まれる為替変動による影響額+77百万円（電線・ヒータ分野+38百万円、デバイス分野+39百万円）

構成比

電線・ヒータ分野



銅地金価格や樹脂などの高騰による影響を受けたものの、前年同期において減収となっていた自動車向けシート用ヒータ線が好調に推移、また、半導体検査や半導体製造装置に使用されるケーブル、中国子会社のヒータ製品が堅調に推移したこと、品種構成において高付加価値製品が伸長した結果、前年同期比+721百万円（+53.9%）となった。

デバイス分野



中国子会社の焼付線、フレキシブルフラットケーブルおよびコンタクトプローブが好調に推移したことから売上高で大幅な増収となっており、また、品種構成において高付加価値製品が伸長した結果、前年同期比+70百万円（+5.3%）の増益となっている。

(百万円、%)	FY20.4Q	FY21.4Q	増減	増減率
営業利益（連結）	2,483	3,260	+777	+31.3
電線・ヒータ分野	1,337	2,058	+721	+53.9
デバイス分野	1,296	1,366	+70	+5.3
その他分野	▲150	▲164	▲14	—

(百万円、%)	FY20	FY21	増減	増減率	増減要因
流動資産	15,991	17,534	+1,543	+9.6	流動資産（その他）
現金及び預金	9,843	10,597	+754	+7.7	売掛債権+338百万円 棚卸資産+594百万円 未収入金▲161百万円 等
その他	6,148	6,936	+788	+12.8	有形・無形固定資産
固定資産	9,902	10,202	+300	+3.0	設備投資+1,444百万円 減価償却費▲949百万円 固定資産除売却▲48百万円 その他+115百万円
有形・無形固定資産	7,465	8,028	+562	+7.5	流動負債
投資その他の資産	2,437	2,174	▲262	▲10.8	新社屋建設に伴う設備支払手形の支払い ▲1,074百万円 仕入債務+217百万円 未払金+326百万円 等
資産合計	25,894	27,737	+1,842	+7.1	株主資本
流動負債	6,177	5,821	▲356	▲5.8	資本剰余金+217百万円 利益剰余金+1,931百万円
固定負債	3,618	3,492	▲126	▲3.5	
負債合計	9,795	9,313	▲482	▲4.9	
(うち、有利子負債)	2,359	2,326	▲33	▲1.4	
株主資本	15,226	17,381	+2,155	+14.2	
その他	872	1,041	+169	+19.4	
純資産合計	16,098	18,423	+2,325	+14.4	
負債純資産合計	25,894	27,737	+1,843	+7.1	
自己資本比率	60.7	65.7	+5.0	—	
Net Cash	7,483	8,270	+787	+10.5	

1. 決算概要	...	P.03
2. FY21配当金およびFY22業績予想	...	P.09
3. Appendix	...	P.11

- ・ FY21の年間配当金は80.0円／株（中間配当金30.0円／株、期末配当金50.0円／株）
- ・ FY22の年間配当金は100.0円／株の予想
- ・ FY22の業績予想は下表の通りとなります。
（詳細につきましては、同日に公表いたしました「2022年3月期第4四半期決算短信[日本基準]（連結）」をご参照ください。）

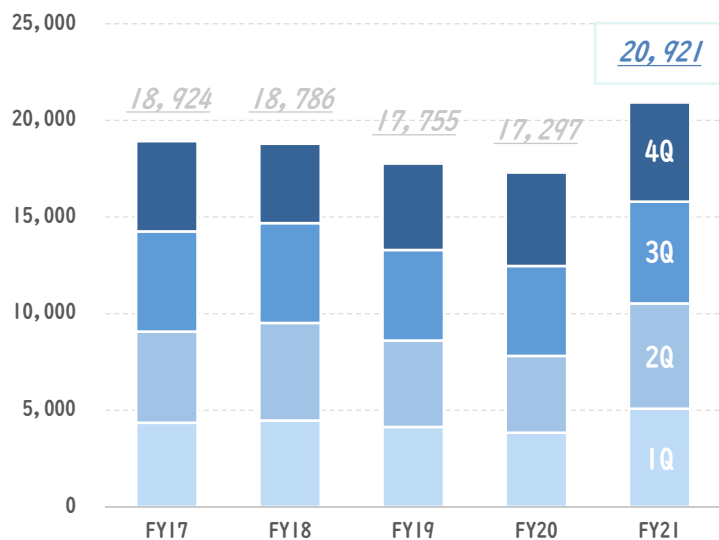
配当金（円、銭）	中間配当	期末配当	合計	総額（百万円）	配当性向（％）
FY20	30.0	30.0	60.0	404	22.4
FY21	30.0	50.0	80.0	539	23.1
FY22（予想）	50.0	50.0	100.0	—	31.8

業績予想（百万円、％）	FY21				FY22		
	前回予想	実績	前回比	増減率	今回予想	前年比	増減率
売上高	19,700	20,921	+1,221	+6.2	21,500	+579	+2.8
営業利益	2,800	3,260	+460	+16.5	3,200	▲60	▲1.9
経常利益	2,810	3,306	+496	+17.7	3,150	▲156	▲4.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,970	2,335	+365	+18.5	2,120	▲215	▲9.2

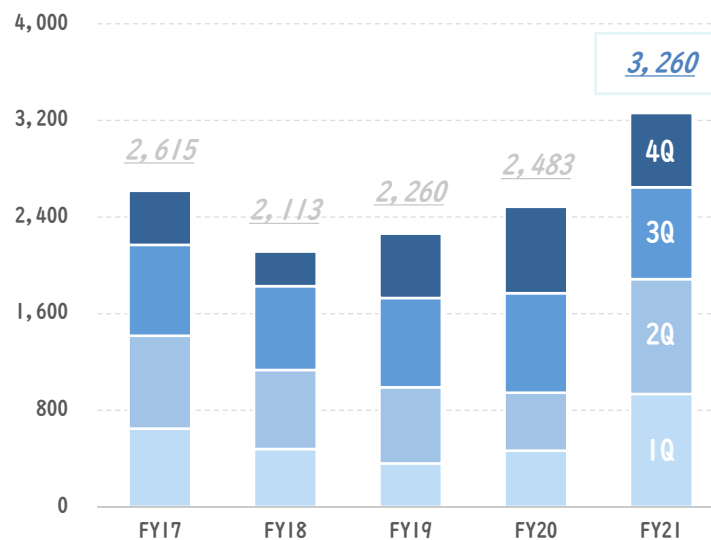
将来に関する記述につきましては、当社が現時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により異なる可能性がございます。

1. 決算概要	• • •	P.03
2. FY21配当金およびFY22業績予想	• • •	P.09
3. Appendix	• • •	P.11

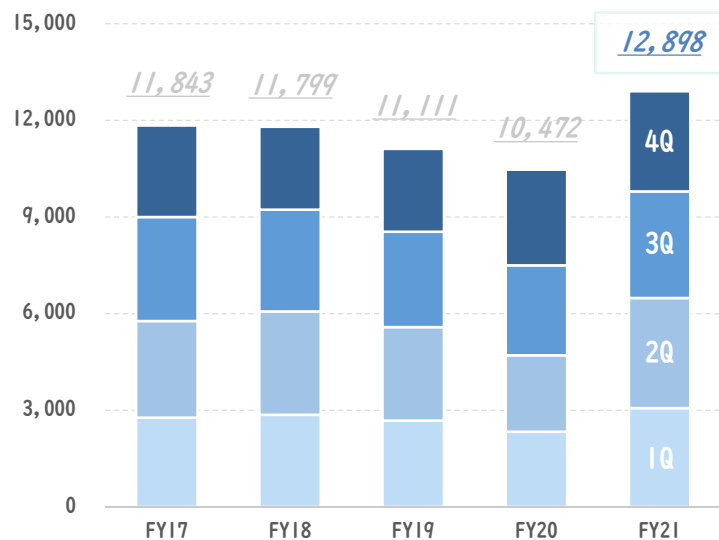
売上高（百万円）



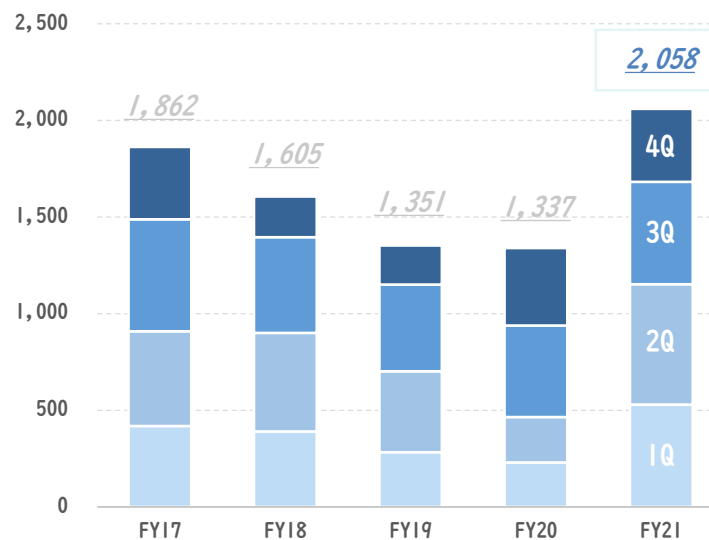
営業利益（百万円）



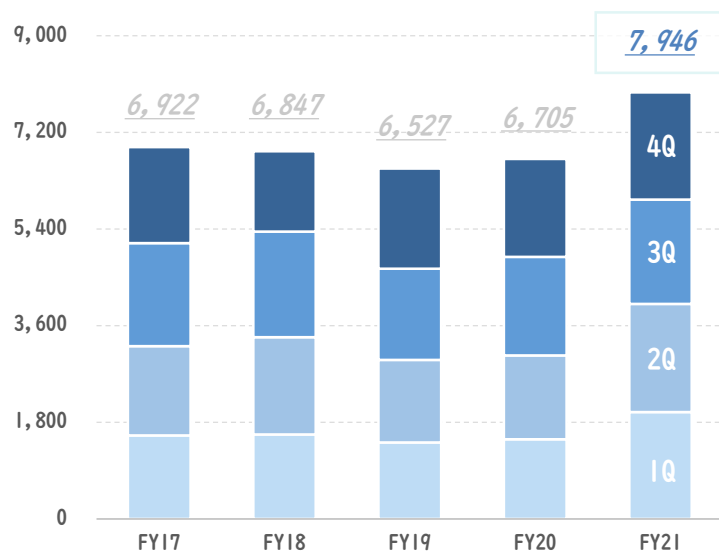
売上高（百万円）



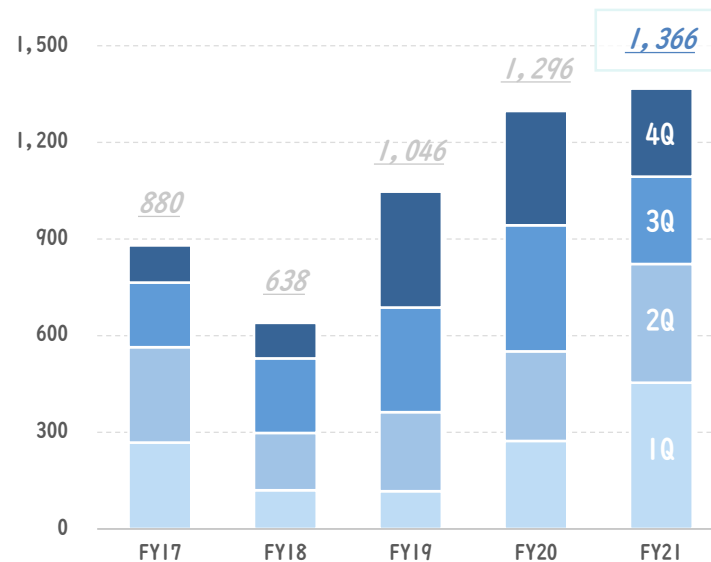
営業利益（百万円）



売上高（百万円）

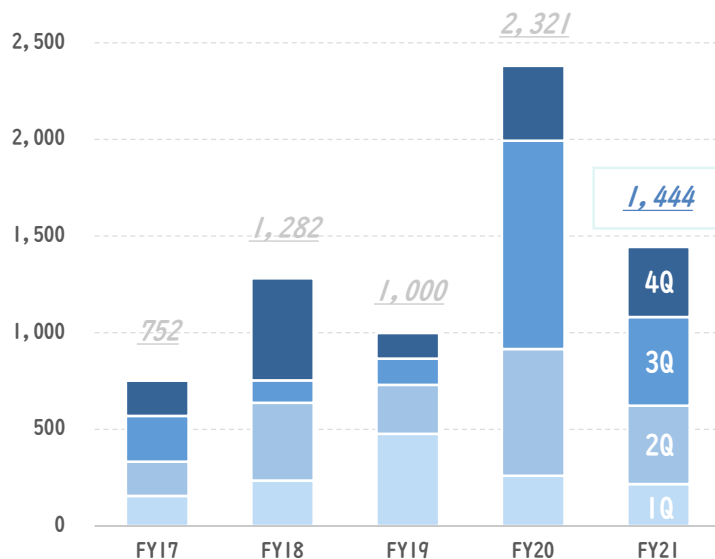


営業利益（百万円）



- ・設備投資は前年同期比▲877百万円（当社▲911百万円、連結子会社+34百万円）の1,444百万円となった。当社での減少については、主に前年同期にて新社屋建設に伴う設備投資が計上されたことによる。
- ・減価償却費は新社屋の竣工や生産設備等の取得に伴い、前年同期比+116百万円の949百万円となっている。
- ・研究開発費については主に当社での増加に伴い、前年同期比+24百万円（当社+20百万円、連結子会社+4百万円）の270百万円となった。

設備投資（百万円）



研究開発費（百万円）

